

令和3年度 印西市民アカデミーだより 第17号

印西の歴史散策 16 (本埜 / 白鳥の郷)

大寒翌日の1月21日(金)、寒風吹きすさぶ360度見渡す限り田んぼの中にある「白鳥の郷」を目指して散策しました。コースは、本埜支所→鳥見神社・愛宕神社→蘇羽鷹神社(笠神城跡)→押付水塚→白鳥の郷→氷川神社→水神社→押付観音堂→笠神社→本埜支所(約5km)です。



★右手の独立した小高い台地の上に合祀されている鳥見神社・愛宕神社。本殿の床下の組手が精巧で見ごたえあります。

左手の独立した小高い台地(笠神城跡)の南側に祀られている蘇羽鷹(そばたか)神社。北側には、「印西大師」の結願寺の一つの南陽院があります。



押付の水塚(みづか)

★洪水から守るため、周辺の平地より高く土を盛った屋敷地



★広大な田んぼの中の一歩道



白鳥の郷



★夕方の餌やりの時刻になると群れごとに白鳥が戻ってきます。



観音堂

★江戸時代正保から明暦のころ、笠神村と小林村との村境をめぐる紛争が原因で亡くなった「笠神の三義人」の墓がある押付(おしつけ)の観音堂。



笠神社

★中世の笠神城の西100mの平地にある笠神社(かさがみしゃ)。境内には、庚申塔(刻像塔 18 基、文字塔 82 基)があります。